

建設 防災 ボランティアニュース 第 29 号

平成 20 年度

東京都総合防災訓練へ参加

今年度は、「平成 20 年度東京都・中央区・江東区合同総合防災訓練」として「防災の日」より 1 日早い 8 月 31 日(日)午前 8 時から正午まで、晴海会場、木場公園会場など数カ所で行なわれました。統一テーマは、災害時における「即応力」と「連携」でした。

建設局からの協力要請にもとづき、当協会からは晴海会場及び木場公園会場の 2 会場へ総勢 24 名の会員が訓練に参加し汗を流しました。

今回の訓練目的は「この訓練を行なうことにより、震災時の当該地区における隣接区間の相互連携とこれを支援する東京都の支援体制及び関連する防災機関の連携を構築する」ものでした。

都内では 28 日から頻繁に大雨洪水警報が出され、断続的に続く局地的豪雨もあり、大気不安定の日が続いていましたが、訓練は予定通りに実施され、無事に終了しました。



木場公園会場の参加会員

知事からは木場公園会場の講評の中で「災害への備えとしては、自助、共助、公助が大切であり、今日のような訓練を愚直に繰り返し繰り返し行なうことが有益である」との話がありました。

参加いただいた会員の皆様には、事前打ち合わせ、リハーサル、そして訓練当日は日曜日早朝からの参加、お疲れさまでした。有り難うございました。

担当理事 中田勝司

木場公園会場

1. 道路障害物除去訓練の報告

本訓練には奥水昭秀、那須井幸一、森田幹男、森田秀樹の計 4 名の会員が参加した。以下、時系列的に報告する。

7 月下旬、古川五建所長と会った際、所長から 8 月 31 日の防災訓練参加を打診され、快諾。8 月 19 日、五建における「事前説明会」に所長、副所長、補修課長、その他多数職員とともに参加した。遠藤補修課長、山本補佐が中心となって説明し、両者とも同訓練の経験者のためやはり充分手馴れた感じだった。

本訓練は道路障害物を除去することで、具体的には木場公園に接した葛西橋通りにおいて段差解消訓練(D 地区)と倒壊した街路灯・街路樹の除去訓練(A 地区)である。ただし、警視庁が行う事故車両及び高所からの救出訓練(B,C 地区)の計 4 箇所、隣接・連携して訓練する。そのため、警視庁との事前調整が難しそうだった。

8 月 22 日、晴海会場予定地を借り、1 時間遅れのタイムスケジュールに則り予行演習に参加。この種の業務は当日でなく、事前の準備が肝要であって、皆黙々と取り組んでいた。

8 月 31 日 7:30 過ぎ五建に参集。遠藤課長は昨日の大雨待機の続きであったが、訓練への気迫がこもっていた。曇り空で雨具の携帯に迷う。ゴルフの経験が役立つとの声あり?

9:30、所長訓示。訓練の統一テーマは「連携」に「即応力」が加わった。確かに 48 時間以内の救出が生死を分ける。命在ってのモノだね、即応力は第一だ。さて、訓練においてはとにかく動作は駆け足、大声、きびきびと行うことに尽きる。

米田保全担当部長が局本部に着席。谷川副知事一行来訪。

9:40、準備作業開始。木場公園周辺は沿道商店と都心型高層集合住宅に囲まれた中心市街地の一角である。時は日曜日の朝。交通止めされた葛西橋通りに静かな緊張が走る。

10:00、訓練開始。補修課 2 名、ボランティア協会員 2 名による被害報告。その後、オフロードバイク、高所作業車、ユニック車、事故を模した車両、建設局道路巡回車、段差解消のための砂袋を積んだダンプカー、救急車、パトカー等の車両が隣接した 4 箇所往來するので臨場感充分。特にサイレンの音、ヘリコプターの爆音は雰囲気盛り上げた。



五建本部に報告する参加会員

10:40、訓練終了。後片付け開始。ところで、住民密度の高い地域にもかかわらず住民見物者が以外と少なかった。日曜日の朝は特に用事がなければ室内にいるのだろうか。

地域防災、防災意識の向上が言われているわけだから、見学者の動員は今後の課題だろうと思った。またアナウンスの言葉は一つの文章が長く、数文字熟語が多く、もし見物者が多数いたら殆ど意味が通じなかったのではないかと思った。

11:05、所長より講評を受けた。その後下水道局による「し尿処理訓練」、「放水訓練」。

12:00、木場公園会場の本部に集合し、河川及び公園訓練担当と合流。知事、江東区長ほかの講評。

12:35 建設局長の講評。おっと忘れてはいけない、当協会のカメラマンご苦労さん。

五建班 森田秀樹

2. 河川関係訓練の報告

訓練当日の天気が心配されたが、蒸し暑いものの天気に恵まれ、木場公園会場で河川関係総合防災訓練が実施された。防災ボランティア五建班から阿部・伊藤会員、他事務所班から戸張・三原・野村(孝)会員の3名が応援として参加した。

防災ボランティアの役割は水防資機材の展示ブースの説明、災害関連パネル展示ブースの説明、簡易釜段工法実演体験ブースでの土のう積み実演

指導など。

訓練当日、8月27日からの連日の雷雨による水防体制のため、五建職員は一部縮少となり、水防資機材の展示ブース、パネル展示ブースは防災ボランティアのみの対応に変更。

急遽即席のヒヤリングを受けて本番に備える。隅田川工業高校の生徒による釜段工法の実演訓練では、生徒が予定の時間に遅れるなどのハプニングがあったが、土のうの造り方、ネコ車の使い方、土のうの積み方など指導しながら生徒たちと協働作業。

生徒たちも意外と素直で安心。昔、水防団員として活動した方も懐かしそうに昔を語る。視察にみえた大原教育長も学生たちと記念写真に納まるなど和気あいあいと訓練は進み、学生のピッチもハイピッチ。知事の到着前にバテてしまいそう。



土のう造り指導中の会員

早々に休憩時間として知事到着に備えるも、急遽の知事動線変更により立ち寄りえないことに、残念。その他、排水ポンプ車実演、水のう実演体験など一般参加者も興味を示していた。五建と河川部の皆さん、連日の水防体制で大変な状況の中での訓練、お疲れ様でした。

五建班 伊藤政行

3. 東部公園緑地事務所の訓練

建設防災ボランティア東部公園班では、江東区木場公園会場で行われた訓練に、後藤旭・小林和雄・角田勲・堂下博・緑川浩の5名が参加した。

8時30分に木場公園サービスセンター前に集合し、安藤公園緑地部長の訓示を受け、東部公園の尼崎担当職員と共に、災害時における公園緑地の役割を紹介する、建設局(公園)ブースがあるパネル展示会場に移動した。建設防災ボランティアの訓練内容は、防災トイレのテントブースの組立訓練、防災施設の紹介・説明である。

8時45分に尼崎担当職員より、パネル展示ブース

前で防災トイレテントの組立始めの合図で、トイレ用テントブースの組立作業を開始した。組立図面を参考に、ポールを組立、其のうえにシートで覆い、ポールとシートを紐で結び、テントの四隅をロープで地面にアンカーで固定し完成させた。



防災トイレテント組立て訓練の参加会員

初めての組立なので、時間は12分を要した。この後、南地区角乗り池南にある防災トイレテント設置訓練場所に移動した。ここは、既設便所脇の芝生に災害時用のトイレが22基設置されており、ここに9時20分に一回目テントブース組立を開始した。パネル展示場所とは種類が異なるテントのため、組立に22分を要した。

二回目は、10時に開始し訓練時間が大幅に短縮され、組立に要した時間は10分であった。三回目は10時58分に開始し8分で組立完了した。だんだん組立の要領が習得され短時間でトイレテント設置ができるようになり、いかに訓練が必要かを痛感した。

また、防災施設の井戸より、トイレ用の水をバケツで運ぶ訓練、見学者に防災トイレ、防災用井戸の使い方などの説明を行った。熱心に質問する見学者もいた。

11時30分過から、組立てたトイレテント三基を解体し収納箱に収めテント設置訓練は終了した。パネル展示場に再度集合し、各防災機関の訓練が全て終了し、石原知事、江東区長、都議会議員、江東区議会議員の全体講評があった。

其の後、建設局職員、建設防災ボランティア、東京都公園協会は、建設局長から講評を受け解散した。
東部公園班 小林 和雄

晴海会場

1. 道路障害物除去訓練の報告

一建の道路障害物除去訓練には、建設防災ボラ

ンティア一建班から、堀中逸、新井敏男、浅見尚旦、平田忠夫の4名の会員が参加しました。私たち4名は曇天の中7時50分に一建に集合、佐野所長以下補修課の職員34名とともに大型バスで晴海会場に向かいました。

会場中央部には地震で被災した仮想晴海道路がおかれ、その前には村尾道路監を本部長とする局本部またその隣には佐野所長を本部長とする一建本部が設営されました。

9時15分自衛隊や消防庁のヘリコプターが飛来するなかで、佐野一建本部長から「本日訓練に参加している関係機関と綿密に連携し、機敏に行動するように」との訓示を受け、9時30分道路班長である周郷補修課長の号令により道路障害除去訓練が開始されました。

ボランティア班の任務はそれぞれの地点における被災状況を確認し、その点検結果を一建本部に報告する情報付与者となりました。



被災状況の報告する参加会員と一建職員

最初のA地点での被災状況は、「マンションが倒壊、車両がガレキにつぶされ、動けない状況であり、交通を遮断。また、車内にはけが人が取り残されている」というものであり、早速情報付与者として現場に赴き、被災状況を確認、駆け足で一建本部へ、点検結果を報告しました。

その後、一建本部、東京消防庁、協力業者連携の下、けが人の救出、ガレキの撤去を実施しました。B地点では、「街路灯、街路樹、電柱が倒壊し交通を遮断している」との情報付与の中、最初に東京電力による通電の確認、電気が通っていないことを確認後、協力業者による電柱の切断撤去を実施しました。

最後のC地点では、「道路の陥没、亀裂による段差が発生それに伴い交通を遮断している」との点検結果報告に基づき、協力業者による道路復旧作業

(路盤材の投入、常温合材の敷設)を実施しました。11時00分予定通りすべての道路障害物撤去作業を終了。

その後村尾局本部長及び佐野一建本部長から講評を受け、一建道路障害物除去訓練が終了しました。

また、12時から晴海会場で訓練を実施した関係者が一堂に集合、東京都副知事及び中央区長から全体講評を受け、東京都総合防災訓練は終了となりました。

今回の訓練は真夏の日差しが照りつける暑い中での訓練となりましたが、一建職員の機敏な行動やはっきりと大きな声で報告、応答している姿を見て、我々ボランティア班もなお一層緊張感を持ち一体となって任務を果たせたと思います

一建班 平田 忠夫

2. 河川関係訓練の報告

今年の東京都総合防災訓練は「防災の日」の前日、8月31日に都心部を中心に大々的に行われました。

訓練は「東京湾北部を震源とする震度6強の地震が発生」とする想定で午前8時から始まりました。当日の訓練会場は晴海会場や銀座地区など11箇所です。約11万人が参加し、被災者の救護訓練、倒壊現場からの救出訓練などが行われました。

建設防災ボランティアとしては、晴海会場で、一建の傘下に入り、道路障害物除去訓練、土のう積み訓練、水のう積み訓練、浸水時における扉開閉訓練に参加しました。

これらの訓練は、一般参加者の方々に体験してもらうことを主眼としたもので、私達ボランティアはこれのサポートが最大の任務でした。

訓練に当たり、事前に一建の職員から手ほどきを受け、リハーサルを実施して万全を期して当日の訓練に臨みました。

ボランティア協会からは、土のう積み訓練に綿貫会員、水のう積み訓練に中嶋会員、扉開閉訓練に石堂会員の3名、本部から本間・加藤会員が参加しました。

訓練当日の天候は、夜来の雨も上がり、薄日も差す絶好の訓練日和だったこともあり、多くの都民が訪れ、訓練を体験していました。

今回初めて取り入れた扉開閉訓練は、たいした体験者もないだろうとの事前の説明でしたが、あにはからんや多くの都民が殺到し、大変忙しい思いをしました。

視察中の知事も体験して、なにやら感想を述べていましたがその声は周りの雑音にかき消され私の耳にまで届きませんでした。訓練は、副知事と中央区長の講評の後、一建工事課の皆さんと記念撮影をして終了しました。



扉開閉訓練中の参加都民と会員・一建職員

その後、会員の皆さんが有楽町に集合して反省会を持ち、大いに盛り上がったようですが、私は自転車のため参加しませんでした。

自転車を漕ぎながらの道々、どんな天変地異がおきようとも絶対に破壊しない「都市＝街」づくりはできないものかな・・・などと「バカ」なことを思いながら家路に着きました。

一建班 石堂 良一

協会からのお知らせ

1. 建設防災ボランティア協会ホームページのアドレスが<http://www.justmystage.com/home/adv/>に変更になりました、検索サイトで「東京都建設防災ボランティア協会」でも開きます。

2. 平成20年度救命再講習会は、受講済の会員を対象にして、10月28(火)に新宿消防署で9:00から開催します。

当協会員だけの単独の講習会を開催するには、20名以上の受講者がいないと開催することが出来ませんので、多くの会員の参加をお待ちしています。

(開催の案内は会員へ既にお送りしています。)

発行人：沼尻 敦

発行：東京都建設防災ボランティア協会

所在地：東京都新宿区西新宿2-3-1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集：加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫